

夏のご挨拶



病院長
新家 眞

本年(2019年)も、梅雨晴れと梅雨が交互に来る季節となりましたが、皆様お変わりございませんでしょうか？さて2019年は元号が平成(31年)から令和(元年)に変わった年ですが、令和の典拠が“梅”に関係する事を思い合せますと、令和最初の“梅”雨も少しはしのぎやすくなるような気がしないでもありません。さて、平成から令和に元号が変わる事で、奇しくも昔習った歴史の知識が「久しぶりに役に立った？」と思う事が2~3ありました。1つは、平成の天皇が上皇になられた事です。上皇と言えば歴史上の話(平清盛や源頼朝とやりあった後白河上皇や北条氏政権と戦った後鳥羽上皇などの名前はイヤでも授業で聞かされましたが)と書いていたのですが、まだ単なる歴史上の単語=死語ではなかった事が分かりました。2つ目は、令和の典拠に関係することです。奈良時代大宰府の師であった大伴旅人宅で催された“梅”花の宴での和歌が万葉集に載っているのですが、その序が漢文で書かれており、その中に「…、○□令月、△×風和、“梅”云々…」とある事による、という事ですが、その序を書いたらしきヒトはやはり我々が文学史で習いその名前位は憶えている大伴旅人(酒の万葉歌人として有名、大伴家持の父)か山上憶良(貧窮問答歌などで有名)と言われています。3つ目は天皇のお名前など(天皇家は姓はありません)は経年性記憶力低下でなかなか憶えられないのですが、明仁上皇と徳仁天皇と並べると、「確か四国の野球の強い明德義塾という高校があったような…」とか「室町時代の明德の乱(山名氏が室町幕府に反抗)つてのを日本史で習ったような忘れたような…」で、順番を間違えずに正確に憶えられるよねえ…」等でしょうか。天皇陛下のお名前を間違えるのはいくら何でもマズいと思いますので。

ここで令和改元が(公立学校共済組合)関東中央病院に一体何の関係があるんだ？という事になります。実は大いに関係ある事を5月1日以降は公にしてよいと明仁天皇(現上皇)侍医長に言われましたのでお話ししたいと思います。今上天皇の即位により皇弟である秋篠宮様は皇嗣(皇位継承第一位)となられ、秋篠宮悠仁親王が同二位となられました。親王はまだ成年に達していないので、春宮となった秋篠宮家の侍医団には親王専属の小児科医を選ぶ必要があります。その小児科の侍医として選ばれたのが、当関東中央病院の金子正英小児科部長であった訳です。悠仁親王の侍医が「小児科医なら誰でも良い。」という事は本人及びその所属先も含めてあり得ない訳ですので、関東中央病院としては大変光栄かつ名誉な事と受け止めている次第です。

さて当院が区唯一の地域医療支援病院を務める世田谷区ですが、都下最大の人口90万を擁するためか、65歳以上の高齢者数は約16万人(2位足立区約15万人、3位大田区14万人)と当然のように23区中第1位ですが、実は5歳以下の幼児数も約4万4千人で2位の練馬区約3万5千人を大きく引き離して第1位という統計があります。金子正英先生の後任にはベテラン八谷靖夫部長が東大小児科医局から就任しております。又金子先生ご本人も時々非常勤で当院に勤務される予定です。関東中央病院は急増する高齢者のみでなく、国の将来を担う小児も含めて、世田谷区地域完結型地域医療の要としての役割を、これからも発展させていきたいと思っておりますので、宜しくお願い致します。